

キリストの前に置かれた喜びとわたしたちの前に置かれた喜び

聖書：ヘブル 12:2. コロサイ 2:15. 啓 19:7-9. ネヘミヤ 8:10 後

I. わたしたちの信仰の創始者、また完成者であるイエスは、ご自分の前に置かれた喜びのために、「恥をもいとわないで十字架を耐え忍び」ました—ヘブル 12:2：

- A. 主は召会を愛して、彼女のためにご自身を捨てました—エペソ 5:25。
- B. 主は十字架上で、ご自身を罪のための犠牲としてささげ、多くの人の罪を担い、信者たちのために罪とされ、この世の支配者を追い出し、この世を裁きました。また彼は一粒の麦として、死の中へと落ちて神聖な命を解き放ちました—ヘブル 9:28. I ペテロ 2:24. II コリント 5:21. ヨハネ 12:24, 31。
- C. コロサイ第 2 章 15 節は、キリストが十字架につけられた時に起こった戦いを描写しています：
 - 1. キリストは十字架につけられた時、贖いを完成するために働いており、また父なる神は、罪を裁くために働いていました。
 - 2. 同時に、支配たちや権威たちも忙しくしており、神とキリストの働きを妨げようとしていました—コロサイ 2:15。
 - 3. 支配たちや権威たちは、邪悪な天使、墮落した天使であり、サタンの従属者であって、サタンのために働いています—エペソ 2:2。
 - 4. 神が罪を裁いていた間、邪悪な支配たちや権威たちはそこにいて、非常に活動的であり、十字架につけられたキリストの周りに群がり、とても近くに押し迫っていました—コロサイ 2:15：
 - a. もし彼らが近くに押し迫っていなかったなら、神は彼らをはぎ取ることはできなかつたでしょう。
 - b. 「はぎ取り」という言葉が示しているのは、わたしたちの衣服と体が近いのと同じくらい、支配たちや権威たちがとても近くにいたということです。
 - 5. 神は支配たちや権威たちをはぎ取った時、彼らを公然とさらしものにして、彼らを辱め、十字架において彼らに凱旋の中で勝ち誇りました—15 節。

II. わたしたちの前に置かれた喜びは、花婿である主イエスが、用意を整えた彼の花嫁のために来ることです—啓 19:7-9：

- A. 花嫁の円熟—啓 19:7-9. エペソ 4:13-15：
 - 1. 団体の花嫁の用意は、勝利者たちの命における円熟にかかっています—啓 19:7. ヘブル 6:1. ピリピ 3:12-15. エペソ 4:13。
 - 2. 造り変えられるとは、わたしたちの天然の命において新陳代謝的に変えられることですが、円熟するとは、わたしたちを変える神聖な命で満たされることです—ヘブル 6:1。

- B. 花嫁の建造—マタイ 16:18. エペソ 2:21-22. 4:15-16 :
1. 神の建造は、神の心の願い、また神の救いの目標です—エペソ 1:5. 出 25:8. 参照、1:11. 40:2-3, 34-35。
 2. 主の回復の目標とは、わたしたちにとって命またすべてとしてのキリストを回復して、わたしたちが建造されるようにすることです—エペソ 3:8. 4:16。
 3. 神の建造は、三一の神の団体的な表現です—I テモテ 3:15-16. ヨハネ 17:22. エペソ 3:19 後半, 21。
- C. 花嫁の義—啓 19:7-9. マタイ 5:20. 22:11-13 :
1. わたしたちの主観的な義として、キリストはわたしたちの中に住んでいる方であり、神によって義とされることができる生活、また常に神に受け入れられる生活を、わたしたちのために生きてくださいます—マタイ 5:6, 20。
 2. 神に対しても人に対しても正しい生活は、日常生活におけるわたしたちの表現としての神でなければなりません—II コリント 3:9. エペソ 4:24. コロサイ 3:10。
 3. 主観的な義として聖徒たちから生かし出されたキリストが、彼らの婚宴の礼服となります—啓 19:8。
 4. マタイ第 22 章 11 節から 13 節の婚宴の礼服は、わたしたちの超越した義として、わたしたちが日常生活で生かし出すキリスト、またわたしたちを通して表現されるキリストを表徴します—マタイ 5:20. 啓 3:4-5, 18。
- D. 花嫁の美しさ—エペソ 5:25-27 :
1. 花嫁として、召会は美しさを必要とします。エペソ第 5 章の美しさは、花嫁をささげるためです。
 2. 花嫁の美しさは、召会の中へと造り込まれるキリスト、そして召会を通して表現されるキリストから来ます—3:17 前半：
 - a. わたしたちの唯一の美しさとは、わたしたちの内側からキリストが輝き出すことです。
 - b. キリストがわたしたちにおいて評価するものは、彼ご自身の表現です。
- E. エペソ第 6 章と啓示録第 19 章が啓示しているのは、花嫁としての召会が、神の敵を打ち破る戦士でもなければならぬということです :
1. 霊的戦いは、からだの事柄です。わたしたちは団体的な軍隊であり、地上における神の権益のために戦います—啓 17:14. 19:14. 参照、II テモテ 2:4。
 2. エペソ第 5 章では、言葉は養いのためであり、花嫁を美しくします。しかし、エペソ第 6 章では、言葉は殺すためであり、団体的な戦士としての召会が霊的戦いに従事することができるようにします—エペソ 6:17-18。

3. キリストは戦う将軍として、彼の軍隊である彼の花嫁と共に来て、ハルマゲドンで反キリストと戦います—啓 19:11-21。
4. 婚宴の礼服は、わたしたちの日ごとの義としてわたしたちから生かし出されたキリストです。これにより、わたしたちは婚宴に参加する資格を持つだけでなく、また軍隊に加わる資格をも持って、ハルマゲドンの戦いにおいて、キリストと共に反キリストと戦います—マタイ 22:11-12. 啓 19:7-8, 14。

Ⅲ. 「エホバを喜ぶことこそ、あなたがたの力である」—ネヘミヤ 8:10 後：

- A. ネヘミヤ記第 8 章 10 節によれば、わたしたちの主を喜ぶことは、わたしたちの力です：
 1. それは、わたしたちが力を持つという事柄ではありません。彼の喜びがわたしたちを支えます—I テサロニケ 5:16。
 2. 主の喜びは、環境とは関係がありません。主は神のみこころの中で喜びました。神のみこころを知り、行なうことに、喜びがありました。
 3. わたしたちは主を模倣すべきではなく、主の喜びを受けるべきです：
 - a. わたしたちは、わたしたちに分け与えられた主のものを持つことができます。
 - b. わたしたちは主の喜びを持つことができます。彼の喜びは、わたしたちの力となります。
- B. ウオッチマン・ニーは、彼の生涯の終わりに、彼の苦難のただ中で、「わたしは自分の喜びを保ち続けています」と言いました—「今の時代における神聖な啓示の先見者—ウオッチマン・ニー」、第 21 章。
- C. 「わたしは自分の喜びを保ち続けています」が示しているのは、彼がピリピ第 4 章 4 節の使徒パウロの言葉、「主の中でいつも喜びなさい」を実行していたということです。
- D. 神のあわれみと恵みを通して、わたしたちがみな、わたしたちの力としての主の喜びによって、わたしたちの喜びを保ち続けることができますように。